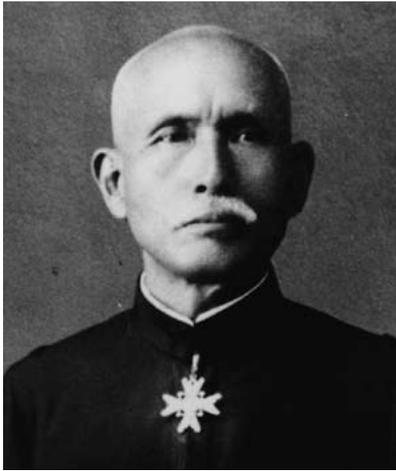


おがわ なおよし
小川 尚義 (1869~1947)



大学教授。台湾語研究者。松山城下(現、松山市)出身。帝国大学文科大学(現、東京大学)博言学科卒業後、恩師で日本の言語学の生みの親である上田万年うえだ かずとしに勧められ、当時、台湾を治めていた日本の総督府に勤務した。

台湾に着任後、早速台湾語の辞書編纂に携わり、『日台大辞典』、『台日大辞典』といった一連の辞書を完成させた。台湾語の研究は、それまでほとんど進んでいなかったため、尚義らによるこれらの辞書編纂は、初の本格的な研究となった。

また、台湾語の研究だけではなく、台湾での日本語教育の普及にも力を尽くした。昭和3(1928)年の台北帝国大学(現、台湾大学)の創立とともに文政学部の教員として赴任し、後に教授となった。その後も台湾語の研究に励み、台湾に住む先住民の言語の研究を開始した。そして、昭和10(1935)年、『原語による台湾高砂族伝説集』を発表し、翌年、その功により帝国学士院(現、日本学士院)より恩賜賞を授与された。

一方、趣味で能楽を楽しみ、同郷の宝生弥一ほうしょう やいち、川崎九淵かわさき きゅうえんらと交流があった。

略歴

明治2(1869)年2月9日	松山城下の勝山町に生まれる。
明治16(1883)年	愛媛県松山中学校(現、県立松山東高等学校)卒業
明治20(1887)年9月	第一高等中学校予科(現、東京大学)入学
明治29(1896)年7月10日	帝国大学文科大学博言学科卒業
10月	台湾総督府学務部勤務
明治40(1907)年	『日台大辞典』を刊行
昭和5(1930)年	台北帝国大学文政学部教授に就任
昭和6(1931)年	『台日大辞典』を刊行
昭和10(1935)年	『原語による台湾高砂族伝説集』を浅井恵倫と共著で刊行
昭和11(1936)年6月1日	帝国学士院から恩賜賞受賞
昭和22(1947)年11月20日	79歳で永眠

〈関連図書〉

- ・愛媛県百科大事典編集委員会『愛媛県百科大事典』 愛媛新聞社 1985年
- ・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 人物』 愛媛県 1989年
- ・土田滋『小川尚義・浅井恵倫 台湾研究資料』 東京外国語大学アジア・アフリカ言語研究所 2005年
- ・小川尚義『台湾蕃語蒐録』 東京外国語大学アジア・アフリカ言語研究所 2005年

(主な収蔵資料)…(P198, 23~25)